

# 大分県におけるスギ精英樹クローンの初期成長について

大分県林業試験場 増田 隆 哉  
川野 洋一郎

## はじめに

精英樹クローンの遺伝的特性、環境適応性を確めるため、次代検定林が設定され、現在スギ精英樹クロン検定林の5年生時調査を行なっている。5年生段階でクローンの特性を把握することはできないが、これまでの調査で、精英樹クローンの成長の優劣、立地適応性について、特性がうかがわれるので報告する。

調査資料の取りまとめには、九州林木育種場、大庭原種課長、戸田原種係長に御指導いただいたことを御礼申し上げる。

## 調査方法

各検定林は、所定の精英樹クローンのプロットが乱塊法で、2ブロックに配置されプロットの間に来来品種が植栽されている。設定後5年目に検定林内の全個体の樹高を測定した。立地変動の影響を除くため、在来品種の樹高値を用いて移動平均法により、立地修正図を作製して、各プロットの個体の測定値を修正した。プロットの全個体の立地修正値平均値を、分散分析クローン間の成長比較に用いた。

## 結果及び考察

これまでの調査検定林は、表-1のとおりである。日田玖珠地区の3検定林では、成長が極端に劣る九大第6号は対象からはずし、九大第4号と九大第5号について取りまとめを行った。分散分析の結果、両検定林とも著しい有意差が認められた。共通の22クローンを用いた2検定林の分散分析でも、クローン間検定林間に著しい有意差が認められ、初期成長においてクローン間差が現われている。

九大第4号検定林においては、33クローンの中、8クローンが、対照のヤブクグリ、スギに比べて、平均値間差が有意で成長が優れている。国東産の実生系クローン国東14号、国東3号が特に良く、地元日田、玖珠産のクローンが、それらに続いて良い(図-1)。

九大第5号検定林においては、82クローンの中、対照のヤブクグリ、スギに比べて有意に成長が優れているのは、玖珠1号(ヤブクグリ)、日田1号、日田20号(ヤブクグリ)である(図-2)。

九大第4号検定林と九大第5号検定林の共通22クローンの平均樹高を用いて、両検定林の相関を求めたが

表-1 調査次代検定林

検 定 林 名	九大第4号	九大第5号	九大第6号	九大第7号	九大第8号	九大第9号
所 在 地	日田郡大山町	玖珠郡九重町	玖珠郡玖珠町	臼杵市	南海部郡直川村	南海部郡宇目町
設 定 年 度	昭和46年	昭和46年	昭和46年	昭和47年	昭和47年	昭和47年
ク ロ ー ン 数	33	32	32	24	25	25
対 照 在 来 品 種	ヤブクグリスギ	ヤブクグリスギ	ヤブクグリスギ	オビスギ	オビスギ	オビスギ
位 置	山復急斜面 ～山頂緩斜面	山腹中上部 平衡斜面	山腹上部～ 山頂緩斜面	山 腹 上 部 平 衡 斜 面	山 腹 急 斜 面	山 腹 急 斜 面
標 高 (m)	200	530	450	300	70	310
ク ロ ー ン 平 均 樹 高(m)	3.15	2.14	1.24	1.71	2.57	1.60
在 来 品 種 平 均 樹 高(m)	3.36	2.26	1.17	1.90	3.21	1.75

